

代官山地域における重層的な地域活動組織の連携とまちづくりへの展開

指導教員 加藤仁美 教授

2 A E B 2 1 1 8 山本智絵

1. 研究の背景・目的

2000年の代官山アドレス建設を機に、代官山地域では次々と新しい建築や開発が生まれ、地域住民の生活に大きな影響を与えている。そして、まちづくりに関わる地域活動組織としては、既存の町内会等の地縁型組織に加え、地域の生活環境をテーマに新住民や来街者を巻き込んだ街づくり協議会が生まれるなど新・旧住民による地縁型とテーマ型の活動組織が共存している状況である。しかし、重層的に存在するこれらの活動は活発になりつつあるものの、現段階では活動組織間の交流がほとんどないというのが現状である。

本研究は、代官山地域における重層的な地域活動組織の実態を調査・把握し、個々の活動組織が互いに地域の情報や課題を共有しながら、代官山地域のまちづくり活動に展開させるには、どのような方法があるのか検証・考察することを目的とする。

2. 研究の方法

代官山地域における種々の活動組織について行政資料・インターネット等により把握する。各活動組織の代表者にヒアリング調査を行う。先進的なまちづくりが展開している地域へのヒアリング調査を行い、代官山地域の現状と比較・分析する。なお、対象地域は行政区分による渋谷区恵比寿地区の代官山地域とする。

3. 代官山地域における重層的な地域活動組織

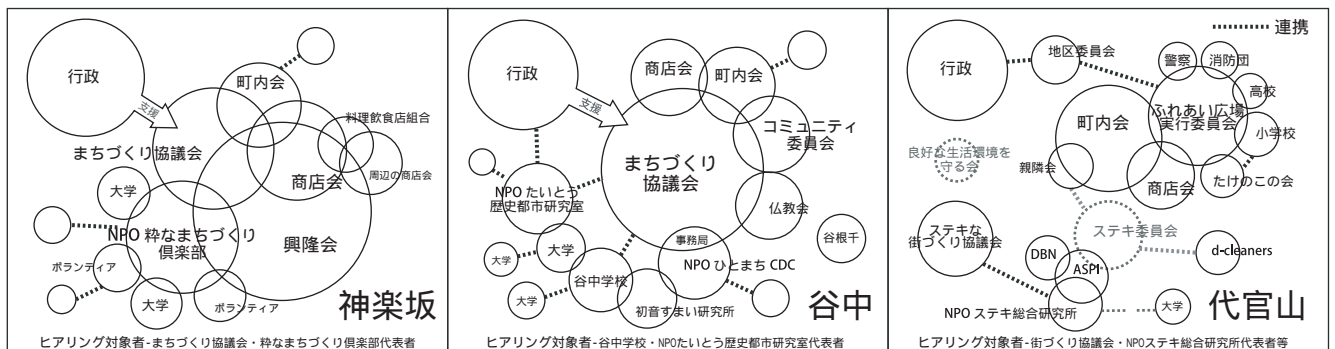
<表>はヒアリング調査等により代官山地域における主な地域活動組織の発足と活動の経緯をまとめたものである。生活環境系の「良好な生活環境を守る会」は高層ビルの建替計画に対する紛争が契機となり発足するが、その後地区計画策定を意図してこの会を引き継ぐ形となった「街づくり協議会」の活動はなかなか地域に浸透せず

地域住民や町内会などの地縁型組織から理解が得られていない状況である。そのため行政から認定された団体として位置付けられていない。一方、行政とのパイプ役としては依然として地縁型組織が重要視されている。また代官山地域の特性を反映して、商業を含めた地域活性化をはかり地域の内外に情報を発信してきた組織や、来街者と共にマイペースで活動しているサークル系の組織もみられる。しかし、これらの地域活動組織は相互に接点を持ちながらも、地域環境の変化に対応したまちづくり活動を展開する共通基盤を持たずに今日に至っている。

4. まとめ

<図>は先進的なまちづくりを展開している地域における地域活動組織の相関図をヒアリング調査によりまとめたものである。神楽坂・谷中では地縁型組織を中心に行政の支援の下で「まちづくり協議会」が発足しており、この協議会を中心にまちづくり活動がはじまっている。これを取巻く各組織は、協議会のサポート的存在でありある部分では事務局機能などの実質的な活動を請負い、共にまちづくりを進めている。また、両地区とも各組織が連携して拡大していくための「つなぎ」の役割を果たす組織や個人が存在しており、地縁型組織とテーマ型組織を結び付けている。代官山では、この「つなぎ」の存在がまだ見られず、一つ一つの組織が小さくバラバラである。現在代官山地域では、新たな組織間の交流が図られつつあり、こうした活動を積み重ねていく中で、神楽坂や谷中のような組織間の連携が図られ、行政との協働のまちづくりへの展開が可能となるということが明らかとなった。

参考文献：岩橋謹次/「代官山」-ステキなまちづくり進行中-/織研新聞社/2002年1月10日
前田 礼/ヒルサイドテラス物語-朝倉家と代官山のまちづくり-/現代企画室/2005年12月25日
三十周年記念誌/渋谷区/1992年4月15日・太田直樹・森崎伸也/渋谷区代官山地域における土地の履歴とまちの記憶/東海大学建築学科/2003年



<図> 調査対象地域における活動組織相関図



<表> 代官山地域における活動組織の発足及び経緯